

抄録記載方法

1. 抄録の登録方法について

- 1) ホームページにてご自分の採択と演題番号を確認後、UMINにて抄録を登録して下さい。手順は以下のとおりです。
(一社)日本歯科技工学会のホームページにあるUMINのアドレスを開きますと、下記の画面が出てきますので、指示に沿って進んで下さい。



((一社)日本歯科技工学会第40回学術大会)演題登録

※本システムは Internet Explorer と Netscape、Safari で動作確認を行っております。
それ以外のブラウザはご利用にならないようお願いいたします。

注：Safari におきましては、ver.2.0.3(417.9.2)以降のバージョンでご利用可能です。
上記に満たないバージョンは使用できません。

発表形式(必須)：

選択して下さい ▼

筆頭著者の氏名(日本語表記)(必須)：

姓(例)吉田 名(例)茂

- 2) 指示されたスペースが全部埋まりますと、最後に「登録した自分の抄録を参照・更新するためのパスワード(半角英数文字6~8文字)(必須):」と出てきますので、ローマ字でお名前を入れて下さい(必ず記録(保存)して下さい)。
- 3) パスワードを入れましたら、[次に進む]をクリックして下さい。登録されます。
- 4) 登録が終わりましたら、IDコード番号が出ますので、大切に記録しておいて下さい(抄録の修正をする場合に必要になります)。
- 5) UMINの登録システムを使用しますので、必ず指示通りに入力して下さい。
不備な箇所は赤字で示されますので、ご確認下さい。

2. 抄録の記載方法について(1 演題あたり)

- 1) 発表者は7名までとします(発表演者を含む)。
- 2) 発表者の所属は4施設までは可能です。
- 3) 所属は略称を使用せず、正式名を記載して下さい(ただし、長い場合は所属がわかる範囲で省略して下さい)。
公益法人(社団、財団等)が運営する研究機関や本学会の賛助会員として登録している企業や団体はその名称を記載できます。病院技工室勤務の方は「技工室」まで、学生は「学年」も明記して下さい。
以上に該当しない場合は、**発表者の現住所(例：東京都)**を記載して下さい。○○歯科技工所、○○歯科医院等は使用不可です。
デモンストレーションで賛助会員の社員以外の会員・学生に発表を依頼する場合は、所属の末尾に賛助会員名を明記して下さい。
- 4) 演題タイトルの文字数は、**和文タイトルは40字まで、英文タイトルは25 wordsまで**とします。

- 5) **和文の本文**は文字のみの場合 **1,400 字以上, 1,800 字以内**とします。ただし図表のある場合は1枚につき本文文字数を400字減らして下さい。
- 6) 図表は、合計2枚までとします。(1つのファイルにまとめて下さい)
- 7) **英文抄録は 120 words 以内**とします。
- 8) オンライン登録においては字数制限が厳格ですので、登録される場合は事前に十分、字数のチェックをお願いします。字数制限より少な過ぎますと抄録の体裁が悪くなります(抄録の作り直しをお願いをすることになります)し、また多過ぎますと登録が不可能となりますのでご留意下さい。

3. **下記の点**に特に注意して下さい!

- * **(必須)** と赤字で書かれた空欄は必ず埋めて下さい。
- * 英文の名前・タイトル・抄録はすべて半角文字を使用して下さい。単語と単語の間も半角で空けて下さい。
- * タイトル(和文・英文)、抄録(和文・英文)は字数を必ずご確認ください。文字が多すぎると登録できません。
- * **図・表はモノクロ(グレースケール)で作成し、JPEG形式で保存したものを登録して下さい。**
- * 抄録の本文に小見出し、改行がある場合は、改行の指示を必ず入れて下さい。

抄録登録期間：平成30年6月5日(火)～6月28日(木)(13:00 締切厳守)

組み上がり見本（登録された抄録は、学術大会講演集の際には下記のような形態で印刷されます。）

〔組み上がり見本・縮小しています〕

P-67 デジタル印象法による直接法および間接法で製作したCAD/CAM冠の適合性に関する研究

○末瀬一彦, 木下浩志*, 藤田 暁*, 森川良一*, 中西正泰*

大阪歯科大学歯科審美学室, *大阪歯科大学歯科技工士専門学校

Comparison of the adaptation of CAD/CAM crown fabricated by direct intraoral digital scanner and extraoral scanner

Suese K, Kinoshita H, Fujita S, Morikawa R, Nakanshi M

We compared the inside adaptation of the CAD/CAM crown fabricated using the oral digital scanner (direct method) and extraoral scanner (indirect method) carried out by the master cast with digital scanner. As a result, the crown of conformity fabricated with the oral digital scanner from the indirect method except for the occlusal surface part was better. In each measurement part of crown, the significant difference was not accepted among both. The oral digital scanner has many advantages, such as mitigation of the stress to an impression, prevention from infection, and a check in real time, and spread at the clinical spot will be expected from now on.

A. 目的

口腔内で直接スキャナーを用いてデジタル印象採得する光学印象は、従来の精密印象から作業模型を製作して行う間接作業に比べて、苦痛軽減、感染防止、リアルタイムでの確認、情報の蓄積と再利用など多くの利点がある。口腔内スキャナーは日本でもデジタルインプレッション装置として相次いで薬事承認されている。口腔内デジタルスキャンではモデルレスでクラウンが製作されることから、補綴装置の適合性について中間的に確認することができない。今回、将来臨床応用が確実な口腔内スキャナーを用いたデジタル印象法（直接法）と作業模型を製作後、デジタルスキャンを行った間接法によって製作されたクラウンの適合性について比較検討した。

B. 材料および方法

下顎右側第一大臼歯にCAD/CAM冠用の支台歯形成を行い、オリジナルモデルとした。支台歯を含む片顎を通常法に従ってシリコン印象採得したのち、超硬石膏でマスターモデルを製作した。口腔内デジタル印象にはTRIOS (3 Shape) を用いてオリジナルモデルを直接光学印象採得を行った（直接法）。一方、デンタルスキャナー SC-3 (クラレノリタケデンタル) を用いてマスターモデルをスキャンを行った（間接法）。両者で得られた3次元形状データをDental Designer2013に転送し、クラウンの設計を行った。支台歯インターフェースでのセメント層の設定値を一定にし、STLデータを作成した。次に、NCデータ変換ソフトデントミル (Dent Mill2014: Decam) にてNCデータの作成を行い、ミリングマシン (DWX-50N: ローランド) を用いてハイブリッド型レジンブロック (アベンシア: クラレノリタケデンタル) を切削加工した。クラウンの内面適合性はブラック・ホワイトシリコン法を用いてCAM削り出した直後のCAD/CAM冠内面の7か所（頬側歯頸部→咬合面中央部→舌側歯頸部）の間隙量を計測した。計測した7点について2つの製法による適合性について、一元配置分散分析

法によって比較した。

C. 結果と考察

口腔内デジタルスキャナーを用いた直接法で製作したCAD/CAM冠のマージン部は頬側82 μ m、舌側83 μ m、咬合面中央部209 μ mで、間接法で製作した場合にはそれぞれ96 μ m、105 μ m、181 μ mであった。咬合面中央部を除いていずれも口腔内デジタルスキャナーで製作したCAD/CAM冠は、同等または小さな間隙量であったが、両者間には有意の差は認められなかった。

D. 結論

口腔内デジタルスキャナーを用いた直接法は、印象採得時の苦痛軽減、感染防止、リアルタイムでの確認が可能で、データの保存、伝達が可能であることから今後の普及が期待されるが、作業模型をスキャンする間接法と比較してもクラウンの適合性には差がないことが確認された。

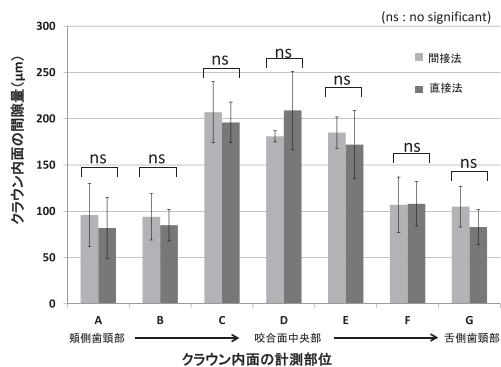


図 直接法 (TRIOS) および間接法 (KATANA) で製作されたクラウン内面の適合性

*抄録登録の際にはこのような形で記載する必要はありません

*所属について

- ・病院技工室勤務の方は「技工室」まで明記下さい。
- ・学生は「学年」も明記下さい。